

さくら学園だより

庄内さくら学園中
学校だより
2021.7.20
No. 4

1学期をふり返り、次のステージへ

昨年度に引き続き「一人ひとりが強いつながりをもてる学校～『自治の力』を高め、未来を切り拓く～」を学校目標に掲げ、庄内さくら学園中学校2年目がスタートして、あっという間に1学期の終了となりました。みなさんは、この1学期をどのように総括するのでしょうか。この間、保護者の皆様にはお忙しい中、時間を調整していただき三者懇談を実施させていただきました。ありがとうございました。そこでは、1学期をふり返って、一人ひとりの生活面、学習面で、頑張って取り組んできたこと、まだまだ課題だなと感じてきたこと等を整理する時間をもつことができたことと思います。お家でも、子どもたちの頑張りへのサポートや課題にむけてのアドバイスをお願いします。

さてこの1学期も、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、昨年度に続いて教育活動が制限される状況の中で取り組みがすすめられていきました。特に、5月から6月に予定していました3年修学旅行、2年キャンプについては、9月に延期せざるを得ない状況となりました。これについて8日には「保護者説明会」をもつことができ、両学年とも子どもたちが楽しみにしている宿泊行事を成功に導いていきたいとの思いで取り組みがすすめられています。また部活動についてもなかなかスタートできず、ようやく6月に入って活動が始められ、この間試合や大会に臨む子どもたちの姿を見ることが出来るようになってきました。7月に入り、各学年でさまざまな取り組みがすすめられていきました。

1年生では、9日に「合唱発表交流会」

をもち、1学期間かけて音楽の時間に取り組んできた歌「その先へ」の合唱を交流する時間をとりました。コロナ禍での合唱ということで、マスク着用でお互い距離をとって歌うこととなるので、とても難しかったとは思いますが、一人ひとりとても緊張したと思いますが、これまで各クラスで工夫して練習してきた歌声を見事に披露してくれました。お互いの合唱を鑑賞することで、新たな気づきも生まれてきたのではないのでしょうか。「思いやりをもって 支え合える 明るい学年」という学年スローガンを目標に動き始めたことと思います。



2年生では「SDGs についての学習」に取り組

みました。社会科の黄瀬先生がファシリテーターとなって、ガードゲーム「SDGs de 地方創生」に取り組んでいましたが、とても熱心に楽しく活動する姿を見ることができました。ゲームを通して、一



人ひとり対話をしていくことで、多くの気づきがあったと思います。

「SDGsは、だれ一人取り残さずに、色々な人を幸せにするために取り組んでいると分かった。SDGsをすることによって、自分たちの未来を明るくするんだなーと思ったし、地球がこわれてしまったら、自分たち以外の世代も困るんだと思いました。…」

3年生では、8日に「先輩方の進路の話を聞く会」がもたれ、六中・十中の卒業生で

高校2年生の5名の先輩が、本校3年生のために「現在通っている高校のこと」「中学3年の時に取り組んだこと」「進路選択に当たって悩んだこと」等、一人ひとりとても丁寧に、そして元気に話をしてくれました。そんな先輩たちの話にしっかり耳を傾ける姿が見られ、これから進路と向き合っていく一歩を踏み出していってくれるものと思います。

「どの先輩もとても充実した顔をして、自分の高校について話しているのが印象に残りました。そんな顔ができるのは、高校を真剣に選んで、後悔のないように努力して進学したからだと感じました。自分は、今まで行きたい高校が見つかっていなかったけど、今回の話を聞いて興味を持った高校が見つかったので、オープンスクールや文化祭に参加してみようと思いました。先輩が『苦しいことを乗り越えたら楽しいことが待っている。』と言っていたので、この言葉を信じて、楽しい高校生活を送れるように頑張っていきたいなと思いました。来年の今頃には、私も今日の先輩方のような充実した顔をしていたいなと思います。」



有意義な夏休みを…

さて、夏休みに入ります。夏休みは自分の「自由度」が増し、自分の力で生活習慣をつくっていく決意と実行力が問われます。保護者の方にとっても、子どもと向き合う時間が増え、なかなか話ができなかったことをお互いに話したり、様々な活動を共にするチャンスと考えてもらえればと思います。しかし一方で「夏」は、さまざまな誘惑や危険な罠も待っています。生活に張りがなくなる中で、ふらふらと巻き込まれてしまっただけでは取り返しのつかない事になってしまいます。子どもには、「信頼している」けれども「心配なんだよ」とのメッセージをしっかり伝えてやってほしいと思います。そして自分を見失うことのない、きっちりした生活を送れるように話をさせていただければと思います。夏休みをどのように過ごすかは、2学期以降の学校生活に大きく影響してくるものと考えています。夏休みの目標や計画をたてるにあたり、学習や様々な活動等において「これは頑張る」といったことを、ぜひお家でも話し合っていたいただきたいと思います。2学期の始業式には、「元気な顔」を見せてくれるものと信じています。

通知表の評価の観点が変更になっていきます

1学期終了するにあたって、子どもたち一人ひとりに通知表が渡されます。本年度より、中学校における学習活動は、新しい学習指導要領のもとで実践されています。このことに伴い、評価の観点等が変更になっていますので、紙面において簡単に説明をしておきたいと思います。

新学習指導要領では、「未来の社会でどんな資質・能力が必要か」について議論・検討されてきました。そこで学校教育で育成すべき資質・能力として、下記のように「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力・人間性等」の三つの柱を示しています。



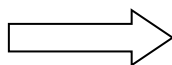
つまり「基礎的な知識や技能をきちんと身につける」「自分で考え、それを人に伝える力」「学習意欲や学習をすすめるためのスキル、授業に能動的に参加する態度」等があげられます。これらの資質・能力が、今回の評価の観点到に反映された形となり、これまでの4観点「知識・理解」「技能」「思考・判断・表現」「関心・意欲・態度」(国語は5観点)から「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3観点到に変更となりました。

知識・理解

技能

思考・判断・表現

関心・意欲・態度



知識・技能

思考・判断・表現

主体的に学習に取り組む態度

それぞれの教科の評価の観点的基準や内容等については、年間指導計画や各教科からの説明プリント等を参照してください。

ご理解、ご協力をよろしくお願いいたします。

創立記念日を9月9日とします

昨年度は、新型コロナウイルスの影響で、開校式・入学式を4月7日に持ったものの、その翌日より「臨時休校」となり、なかなか教育活動が進まずにきました。6月になり、ようやく分散登校から始まって、その後15日に通常登校となるという状況でした。通常登校となっても、教育活動は制限されたままで、1学期は行事や取り組みはできずに終えることとなりました。夏休みも短縮されて、2学期がスタートした時に、庄内さくら学園の校歌ができたとのニュースが飛び込んできました。9月8日には、豊中市が大阪音楽大学より校歌の楽譜を受け取る「受領式」がありました。それを機に、3年生、2年生とつづいて「日帰り体験学習」が行われ、10月には全校による「体育大会」にも取り組むことが出来、統合1年目の学校として、仲間づくりが一気にすすんでいったという実感をもつことが出来ました。「一人ひとりが強いつながりをもてる学校」とうスローガンを掲げる庄内さくら学園中学校が、実質的に動き始めたのが、まさにこの校歌ができたことと重なっているということで、9月8日に受け取った校歌をもって、再スタートを切ったのを9月9日と位置づけ、この日を創立記念日とすることとしました。

先日9月14日に開催された「学校評議員会」においても趣旨を説明し、確認させていただくことが出来ました。ご理解、ご協力をよろしくお願いいたします。

- * 「学校評議員会」は、家庭・地域の意向を学校運営に反映させることにより、家庭・地域・学校の相互連携の充実を図り、「開かれた学校づくり」を推進するために設置しているものです。構成メンバーは、増森兆さん（さくらネット会長）、吉川力さん（野田地域自治協議会会長・さくらネット副会長）、北島孝通さん（校区青少年健全育成会会長）、小林武司さん（前校区青少年健全育成会会長）、吉田宣弘さん（PTA会長）となっています。